

施策⑪ 市町域を越えるコミュニティバスの広域運行

◆ 地域の生活圏に合わせたコミュニティバスの広域運行を推進します。

具体事例 コミュニティバスの広域運行（市川町・福崎町・姫路市）

〔 福崎町・姫路市連携コミュニティバス（ふくひめ号） 〕

福崎町及び姫路市の交通空白地域の解消とJR播但線福崎駅や溝口駅から福崎工業団地へのアクセス確保に対応するため、2019年（令和元年）10月より実証運行を実施。2021年（令和3年）4月より本格運行開始。

〔 福崎町・市川町連携コミバス 〕

住民の生活圏に合わせて、隣接する町内の商業施設や医療機関への移動手段を確保。

〔 市川町コミュニティバス 〕

住民の生活圏に合わせて、隣接する神河町内の神崎総合病院への移動手段を確保。

市川町役場前で「福崎町・市川町連携コミバス」と接続することにより、乗り継ぎを円滑化。

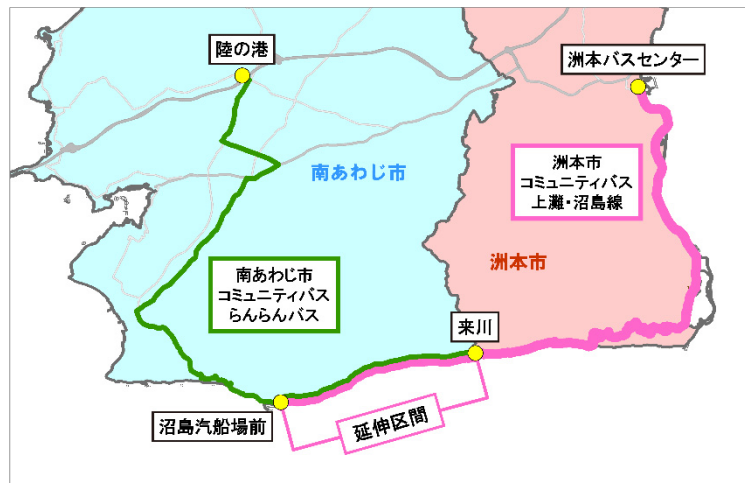


出典：市川町、福崎町、姫路市の各ホームページを基に作成

図 4-15 4市町を広域運行するコミュニティバスの概要

具体事例 コミュニティバスの広域運行（洲本市・南あわじ市）

- ・ 洲本市コミュニティバス上灘線を待合環境が整った南あわじ市の「沼島汽船場前」まで延伸することにより、南あわじ市コミュニティバス「らんらんバス」との乗り継ぎを円滑化。
- ・ 洲本市側から沼島へのアクセスを改善し、地域住民のみならず観光客の利便性を改善。



出典：洲本市、南あわじ市の各ホームページを基に作成

図 4-16 洲本市と南あわじ市が連携して運行するコミュニティバスの運行ルート

3. 高齢者等の端末交通の確保

施策⑫ デマンド型交通の導入

- ◆ 利用者の少ないバス路線の見直しや人口の少ない地域で新たな移動手段を導入する際には、利用者の予約により運行し、運行経路（路線）、運行時刻（時刻表）、乗降地点（停留所）に柔軟性を持たせることで、地域の实情に合わせた多様な形態での運行が可能となるデマンド型交通の導入を推進します。
- ◆ デマンド型交通の効率化のため、ICT を活用した利用者の予約に応じて運行経路や配車スケジュールを作成するシステム（生活交通 MaaS）の導入を推進します。

◎デマンド型交通について

デマンド型交通は、運行方式や運行ダイヤ、発着地の自由度の組み合わせにより、多様な形態での運行が可能です。

デマンド型交通は、定時定路線型の交通にはない利点があり、上手に活用することで地域住民の移動手段確保に大きな役割・効果を発揮します。その一方で、予約の煩わしさや高い利用者一人あたりの輸送コスト等の短所があります。

こうしたことから、デマンド型交通の導入にあたっては、地域住民の移動需要を把握した上で、行政の財政的な制約も踏まえながら、地域の实情にあったデマンド型交通を構築する必要があります。

また、地域全体における最適な公共交通ネットワーク構築の観点から、鉄道や路線バス等の既存の定時定路線型の公共交通に配慮し、デマンド型交通は、このような幹線系の公共交通を補完する交通として位置付けることが重要です。

表 4-3 デマンド型交通の長所・短所

長所	短所
<ul style="list-style-type: none"> ・一定の区域に導入することにより、公共交通空白地域をカバーすることが可能 ・発着地の自由度が高いため、徒歩による移動距離を短くすることができる ・運行方法の工夫により、様々な需要に柔軟に対応することができる ・道幅が狭く路線バスの運行が困難な地域での運行が可能 ・予約がない場合、運行を休止することができ運行経費の削減につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ・予約が必要で、利用者にとって抵抗感がある ・定時性が低い ・利用者一人あたりの輸送コストが定時定路線型の交通に比べ高い ・輸送できる人数が少なく、予約が集中した場合、対応できない場合がある ・需要の大きな地域では不経済であり、行政負担が増大する ・予約、配車の対応業務にコストがかかる ・路線バス等の既存交通と運行区域等の調整が必要 ・一般タクシーと競合する部分があり、乗客を奪う可能性がある

【 デマンド型交通の種類 】

デマンド型交通は、路線バスとタクシーの中間的な位置にある乗合型の公共交通であり、運行経路（路線）、運行時刻（時刻表）、乗降地点（停留所）が定められている一般的な路線バスやコミュニティバスと異なり、経路・時刻・乗降地点に自由度を持たせることで、地域や利用者の実態に合わせた多様な運行形態が可能。

(1) 運行経路 (定路線型⇔自由経路型)

	運行方式の特徴
①定路線型	路線バスやコミュニティバスのように、定められた経路を運行するが、予約があった場合のみ運行する方式
②迂回ルート・エリアデマンド型	定路線型を基本に、予約に応じて所定のバス停等まで迂回させる運行方式
③自由経路ミーティングポイント型	運行ルートは定めず、予め定められた乗降箇所を結ぶ方式
④自由経路ドアツードア型	運行ルートやバス停等は設けず、指定エリア内で予約のあったところを結ぶドアツードア型の運行方式

(2) 運行時刻 (固定ダイヤ型⇔非固定ダイヤ型)

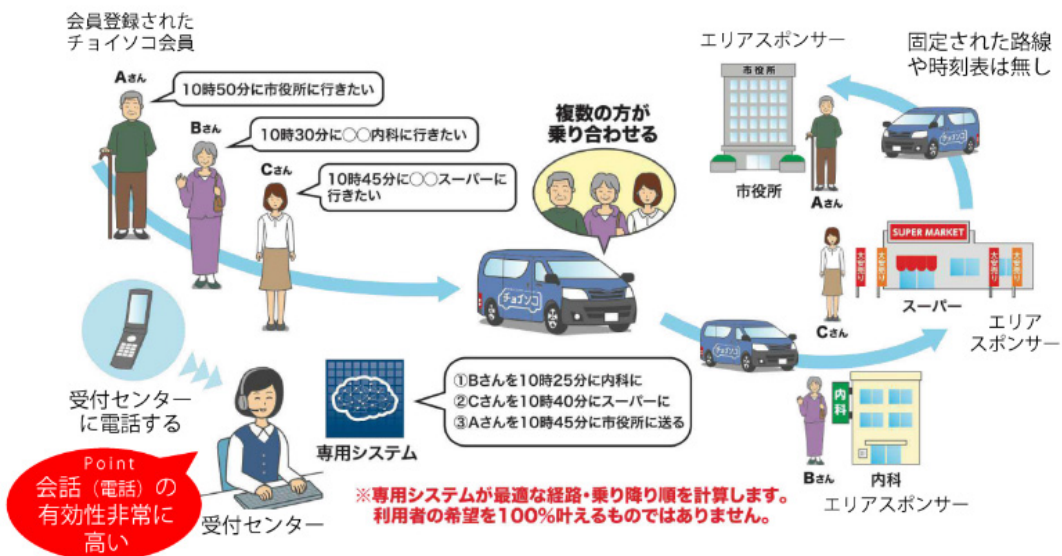
	運行方式の特徴
①固定ダイヤ型	予め定められたダイヤに基づき、予約があった場合のみ運行
②基本ダイヤ型	運行の頻度と主要施設やバス停等における概ね発時刻、着時刻のみが設定されており、予約に応じ運行
③非固定ダイヤ型	運行時間内であれば、需要に応じ、随時運行

(3) 乗降地点 (停留所)

	運行方式の特徴 (自宅から出かける場合)
①バス停⇔バス停	予め設置されているバス停で発着
②バス停⇔着地固定	発地はバス停、着地は病院等特定の施設またはエリア
③バス停⇔乗継施設	発地はバス停等、着地は幹線バスの最寄りバス停
④ドア (自宅・施設) ⇔乗継施設	発地は利用者の自宅や特定の施設、着地は幹線バスの最寄りバス停
⑤ドア (自宅・施設) ⇔着地固定	発地は利用者の自宅や特定の施設、着地は病院等特定の施設またはエリア
⑥ドア (自宅・施設) ⇔ドア (自宅・施設)	エリア内であれば、自宅や特定の施設から目的施設までの間を移動可能

具体事例 チョイスコ加古川（加古川市）

- ・加古川市では、会員登録をした住民から乗車依頼を受け、ICT を活用したシステムにより、最適な乗り合わせと経緯を試算し、目的地まで乗合送迎をする実証実験を実施。



出典：加古川市ホームページ

図 4-17 「チョイスコ加古川」の運用システム

具体事例 デマンド型交通あいのりいなみ（稲美町）

- ・稲美町では、既存の路線バス網を補完し、交通空白地域、交通不便地域の住民の買い物や通院等の日常生活における移動手段確保のため、デマンド型交通の導入を検討。
- ・2020年（令和2年）12月から2022年（令和4年）3月末までの間で、セダン型タクシー（乗車4名定員）2台により社会実験を実施。



出典：「広報いなみ」稲美町

図 4-18 デマンド型交通導入エリア

具体事例 市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」(たつの市)

- たつの市では、利用者が少ない定時定路線型のコミュニティバス路線の見直しを実施。住民の日常の移動を支えるとともに、鉄道や路線バス等の幹線交通へ接続する支線の役割を担う移動手段として、市民乗り合いタクシー(デマンド型交通)を市内全域で導入。
- デマンド型交通の導入により、公共交通空白地域の解消や鉄道・定時定路線型のバスでは対応が難しい細かな需要への対応を図った。

運行概要

利用には事前登録が必要です。
あかねちゃんをご利用できる移動は、区域内の以下の3通りです。

- ① ご自宅(または指定場所)から目的地への移動
- ② 目的地からご自宅(または指定場所)への移動
- ③ 目的地から目的地への移動

[運行車両]



利用の仕方

手順 1 電話で予約

お伝えいただくこと

- ① 利用される方のお名前、電話番号
- ② 利用したい日と時間帯
- ③ お迎えに行く場所と目的地
- ④ 帰りの便の時間帯(分かる場合)

手順 2 確認の電話の受け取り

○月×日の△時□分ごろにお迎えに行きますので、ご自宅の前でお待ちください。

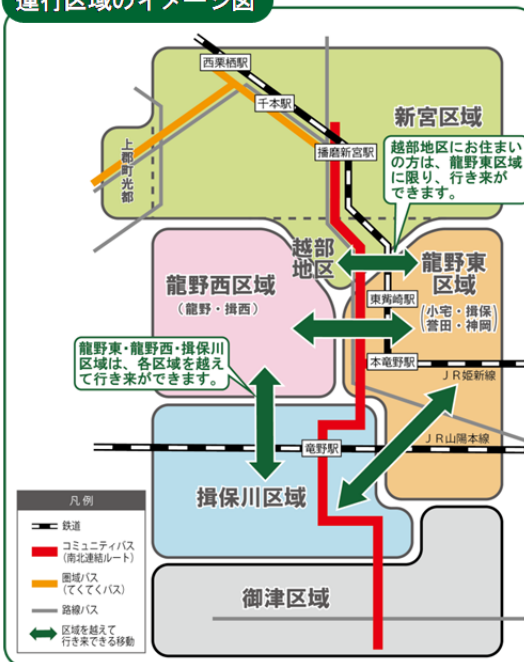
手順 3 迎える車両に乗車して移動

乗り合いで順番に移動します!

手順 4 目的地に到着

予約のあった施設を順番に回ります!

運行区域のイメージ図



出典：たつの市ホームページを基に作成

図 4-19 市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」の概要

施策⑬ タクシーの活用

- ◆ 交通空白地域・交通不便地域における駅やバス停までの端末交通手段として乗合タクシー、乗用タクシー（事前確定運賃、一括定額運賃、相乗り）の活用を推進します。

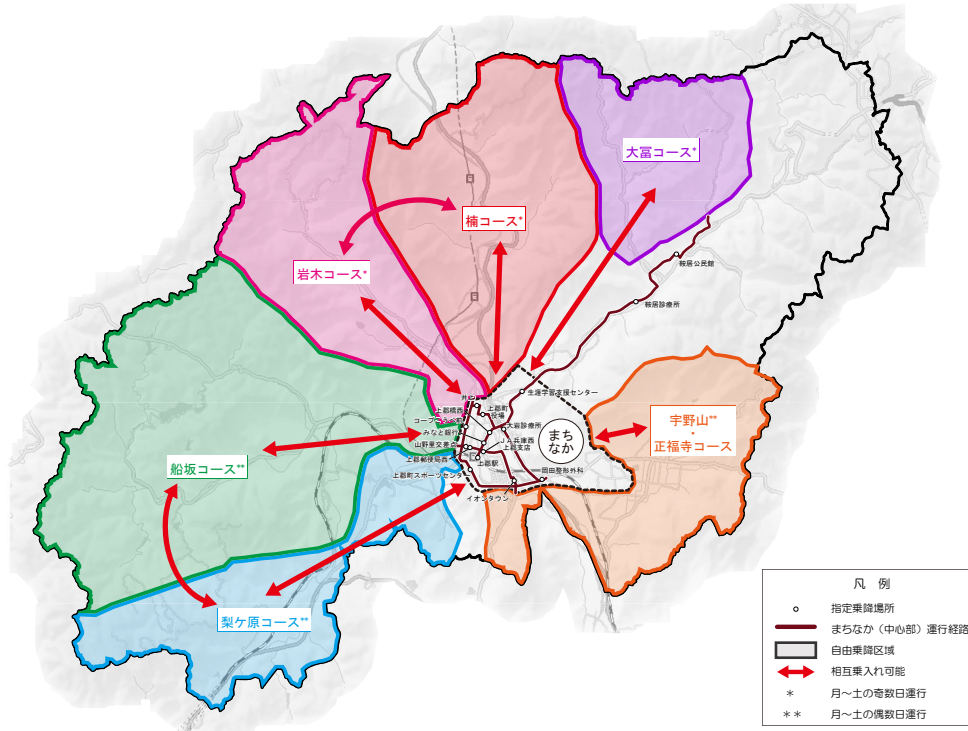
具体事例 予約型乗合タクシー「ほほえみタクシー」の運行（上郡町）

- ・上郡町では、路線バスの廃止による公共交通空白地域の拡大や高齢化の進展により買い物や通院等の日常生活に支障をきたす人が増加していたことから、タクシーを活用した新たな公共交通として、乗合タクシー「ほほえみタクシー」を3年間の運行実験を経て2014年（平成26年）から本格運行。
- ・「ほほえみタクシー」はデマンド型を採用。予約制で運行日、運行頻度、発地の発車時刻が定められた「基本ダイヤ型」。乗降箇所は中心部では定められた乗降場所（14箇所）、中心部以外の各地区では自宅前等希望する場所で運行。

〔 運行車両 〕



〔 ほほえみタクシー運行エリア・運行路線網 〕



出典：上郡町ホームページ、
「上郡町地域公共交通計画（案）」

図 4-20 予約型乗合タクシー「ほほえみタクシー」の概要

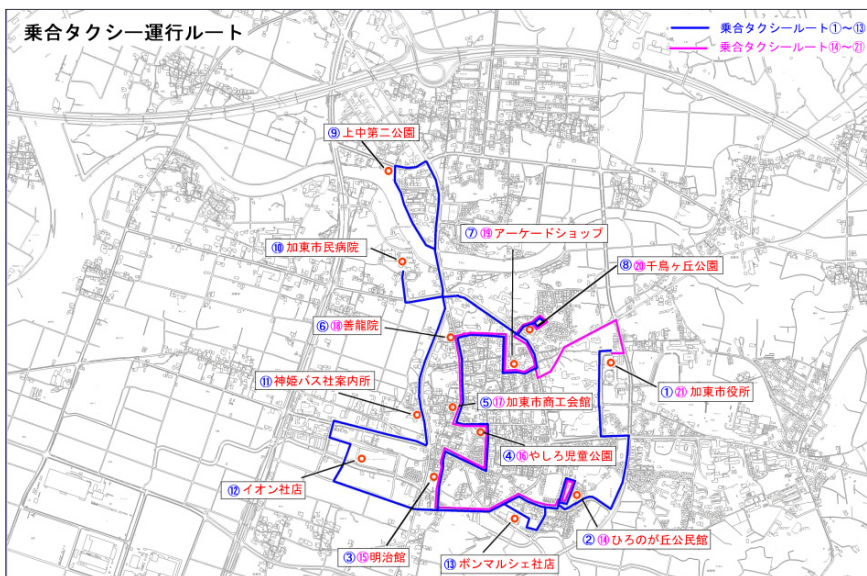
具体事例 社市街地循環乗合タクシー（加東市）

- ・加東市では、社市街地内での買い物や通院等の日常生活の移動、路線バス及び自主運行バスの利便性向上を図るため、主な施設と居住地域を循環する乗合タクシー導入に向けた試験運行を2020年（令和2年）7月1日より実施。
- ・ジャンボタクシー（10人乗り車両）を使用し、定時定路線で運行。運賃は均一（200円）。
- ・運行ルートは、市役所や市民病院、商業施設等の市街地内の主要施設と道路幅が狭くこれまで路線バスが通れなかった住宅地内を循環。

〔 運行車両 〕



〔 乗合タクシー運行ルート 〕



出典：加東市ホームページ

図 4-21 社市街地循環乗合タクシーの概要

【 タクシー（乗用）の新たな運賃制度 】

表 4-4 タクシーの新たな運賃・料金サービス（令和3年2月現在）

事前 確定運賃	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 配車アプリを活用して、タクシーに乗車する前に運賃が確定。 ➢ 渋滞や回り道、到着するまでメーターが気になるというタクシー運賃に関する不安が解消。 	R1.10.28より 地域限定で サービス開始
相乗り タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 配車アプリを活用して、目的地が近い利用者同士をマッチングし、1台のタクシーに相乗りできるサービス。 ➢ 割安にタクシー利用が可能。 	H30 実証実験 (東京23区、 武蔵野市、三鷹市)
変動送迎 料金	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 過去の輸送実績等から時間帯毎のタクシー需要を判断し、それに応じて段階的に価格を変動させる迎車料金。 ➢ 閑散時間帯の潜在的な配車の需要、混雑時間帯の優先的配車の需要といったニーズに対応。 	R2.11.30 導入
定額 タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 事業者が利用可能区域、利用回数等の条件を定めた上で、条件の範囲内で一定期間、定額で乗り放題とする運賃。 ➢ 運転免許を返納した高齢者の通院、共働き夫婦の子どもの通塾といった各地域のニーズに対応。 	R2.11.30 導入

施策⑭ 住民等が主体となった地域交通確保の取り組みへの支援

- ◆ 自家用有償旅客運送制度等を活用して、地域住民等が主体となって地域の移手段の確保を行う場合、立ち上げ費用や運行経費を支援します。

□ 兵庫県の自主運行バス支援制度

- ・ 住民が主体の自家用有償旅客運送制度等を活用した地域の移手段の確保の取り組みを支援するため、認定講習受講費等の立ち上げ費用及び車両購入費に対して支援。

[支援内容]

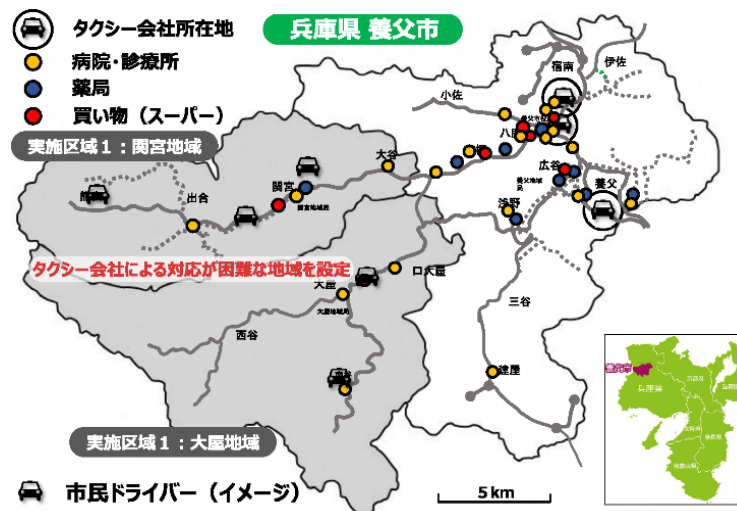
○立ち上げ支援

- ・ 認定講習受講費
- ・ 自動車保険加入費
- ・ 車体表示作成費、運転者証作成費
- ・ 停留所表示作成費
- ・ 運行管理体制の整備に要する経費
- ・ その他社会実験に要する経費

○車両購入費（更新含む）

具休事例 自主運行バス（自家用有償旅客運送）「やぶくる」（養父市）

- ・ タクシーによる対応が困難な地域における移手段を確保するため、NPO 法人が実施主体の自家用有償旅客運送によるデマンド型交通（区域運行方式）を 2018 年（平成 30 年）5 月より運行。
- ・ 国家戦略特区を活用し、地域住民だけでなく観光客も乗車可能とし、観光地への 2 次交通アクセス手段として利用。住民ドライバーの点呼（健康状態、アルコールチェック）や運行管理等の業務負担の大きい部分をタクシー事業者、バス事業者がノウハウを提供し協力する仕組みを構築。



出典：「国家戦略特区を活用した新たな自家用有償観光旅客等運送事業について」 国土交通省
図 4-22 やぶくるの実施区域

具休事例 自主運行バス（自家用有償旅客運送）「チクタク」（豊岡市）

- ・ コミュニティバス「イナカー」が廃止された地域等の公共交通空白地域における移手段を確保するため、地元関係者で組織する運営協議会が運行。
- ・ 豊岡市内 4 地域で「チクタク奥山」「チクタクひぼこ」「チクタク資母」「チクタク合橋」が運行。



出典：豊岡市ホームページ

4. 新型輸送サービス活用による移動手段確保

施策⑮ グリーンスローモビリティの導入モデルの検討

- ◆ 道路幅の狭い地域や傾斜地等における末端移動手段として、小型、電動、時速 20km 未満で4人以上が乗車可能なグリーンスローモビリティの導入に向けた実証運行を推進します。

◎ グリーンスローモビリティの導入

グリーンスローモビリティは、時速 20km 未満で公道を走る 4 人乗り以上の電動の自動車で、環境にやさしい、狭い道路でも運行が可能、歩行者や自転車が共存する空間でも比較的安全等の特徴があり、地域住民の足、観光客向けの移動手段、短い距離の輸送等での活用が想定されます。その反面、交通量の多い幹線道路での走行や遠方への移動には不向きであるため、本格的な運行に向けては、こうした特徴を十分踏まえ、実証実験を行った上で事業化していくことが重要です。

【 本格運行の事例 】

【 具体事例 】 タクシー事業による地域住民・観光客輸送（広島県福山市）

- 狭隘な道や坂道が多い広島県福山市内の浦では、実証事業後「グリスロ潮待ちタクシー」として、2019 年（平成 31 年）4 月 19 日より全国初となるグリーンスローモビリティによる本格事業を開始。
- タクシー事業者が運行し、料金は通常のタクシーと同じ初乗り運賃と距離で設定。電話で予約。4 人乗り（運転手除く）の車両で運行。

〔 運行エリア 〕



〔 運行車両 〕



出典：国土交通省ホームページ

図 4-23 「グリスロ潮待ちタクシー」の概要

【 具体事例 】 自家用有償旅客運送による高齢者送迎（東京都町田市）

- 東京都町田市鶴川団地で買い物等のお出掛けに困っている高齢者を対象とした送迎サービスを 2019 年（令和元年）12 月 3 日より実施。
- 利用対象は、団地に居住する高齢者で、年間 500 円の登録制。
- 社会福祉法人がゴルフカート型（4 人乗り）2 台で運行。

〔 運行エリア（緑線内） 〕



〔 運行車両 〕



出典：国土交通省ホームページ

図 4-24 「町田市鶴川団地高齢者送迎サービス」の概要

【 実証実験の事例 】

【 具体事例 】 朝来市秋葉台住宅団地における実証運行（朝来市）

- 朝来市の秋葉台住宅団地は、高齢化が進む中、坂道が多くバス停までの移動に苦勞する住民の増加。市は、この課題に対応するため、ラストワンマイルの移動手段としてグリーンスローモビリティの導入を検討。
- 2019年（令和元年）10月、朝来市が国土交通省の支援制度を活用して実証運行を実施。ルートやダイヤ等のサービス内容、運営体制、住民ニーズへの対応状況等を調査。

〔 運行ルート 〕



〔 運行車両 〕



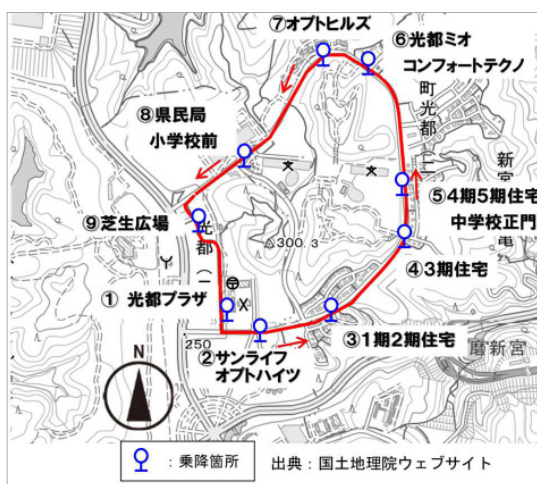
出典：朝来市ホームページ

図 4-25 朝来市における実証運行の概要

【 具体事例 】 播磨科学公園都市における実証実験（播磨科学公園都市）

- 播磨科学公園都市は都市内の移動手段の充実に課題となっており、兵庫県企業庁は都市中心部に整備中の交通結節点を拠点とした移動手段の一つとして、自動運転のグリーンスローモビリティ導入を検討。
- 2021年（令和3年）1月、兵庫県企業庁が近畿経済産業局と共同で自動運転のグリーンスローモビリティ等を活用した西播磨 MaaS の実証実験を実施。地域住民や来訪者の利便性の向上等について調査。
- 実証実験では、グリーンスローモビリティの他、超小型EVや電動キックボードをMaaSによる予約システムと組み合わせ、都市内の末端交通の充実に取り組む。

〔 運行ルート 〕



〔 運行車両 〕



出典：「次世代モビリティを活用した西播磨 MaaS 実証実験」 チラシ

図 4-26 播磨科学公園都市における実証実験の概要

5. 地域における移動手段の維持・確保

施策⑯ 生活交通の維持・確保に対する支援

- ◆ 生活交通を維持・確保するため、路線バスやコミュニティバス、離島航路等の運行を支援します。

□ 国の支援制度：公共交通確保維持改善事業支援制度

地域公共交通確保維持事業 (地域の実情に応じた生活交通の確保維持)

<支援の内容>

- 高齢化が進む過疎地域等の足を確保するための幹線バス交通や地域内交通の運行
 - ・地域間交通ネットワークを形成する幹線バス交通の運行や車両購入、貨客混載の導入を支援
 - ・過疎地域等において、コミュニティバス、デマンドタクシー、自家用有償旅客運送等の地域内交通の運行や車両購入、貨客混載の導入を支援
- 離島航路・航空路の運航
 - ・離島住民の日常生活に不可欠な交通手段である離島航路・航空路の運航等を支援



出典：国土交通省ホームページ

□ 兵庫県の路線バス、コミュニティバスの支援制度

○ 路線バスに対する支援

【バス対策費補助：県単独補助路線維持】

- ・複数市町にまたがる地域間系統について、県単独の補助制度により沿線市町と協調して支援

○ コミュニティバスに対する支援

【コミュニティバス運行総合支援事業(運行支援)】

- ・市町が主体となって運行するコミュニティバスの運行経費を支援

【コミュニティバス運行総合支援事業(自主運行バス立ち上げ及び車両購入支援)】

- ・地域住民が主体となって運行する自主運行バスを、市町村運営有償運送または公共交通空白地有償運送により実施する場合、立ち上げ経費及び車両購入経費を支援

目標 2 観光・交流を支える公共交通

基本方針 2 : 広域的な公共交通ネットワークの充実・強化

1. 広域的な公共交通ネットワーク強化

施策⑱ 特急列車ネットワークの充実、高速バスネットワークの充実

- ◆ 特急列車の新設・増便、運行区間の延伸を推進し、都市間・地域間の広域的な公共交通ネットワークを強化します。
- ◆ 高速道路ネットワーク等の道路整備や集約型バスターミナルの整備に合わせて、高速バスネットワークの強化を図ります。
- ◆ 高速バス停留箇所の増設、新規路線の開設、観光地への直接乗入、オープンドア化（乗降車不可のバス停の解消）等を推進し、利便性向上を図ります。

具体事例 高速バスの洲本温泉街までの直接乗入、高速バスの島内オープンドア化（洲本市）

- ・西日本ジェイアールバスと本四海峡バスは、2020年（令和2年）10月より、淡路島を訪れる観光客の利便性向上のため、大阪・神戸発洲本行き的高速バスの一部を延伸し、洲本温泉街への直行便を運行。洲本温泉街の主要な宿泊施設前にバス停を新設。
- ・高速バスによる観光周遊を図るため、上記直行便で淡路島内（ニジゲンノモリ～洲本温泉間）での乗降を可能とするよう改正。



図 4-27 洲本温泉号 出発式



出典：本四海峡バス、西日本ジェイアールバス、洲本温泉の各ホームページを基に作成

図 4-28 高速バスの洲本温泉街乗入の概要

施策⑱ 空港・新幹線駅へのアクセス交通の充実

- ◆ 空港への鉄軌道アクセス利便性向上、空港・新幹線駅における二次交通（高速バス、路線バス、乗合タクシー等）の充実を図ります。

具体事例 伊丹エアポートライナー（伊丹市）

- 大阪国際空港（伊丹空港）の伊丹市側からのアクセス向上を図るため、2004年（平成16年）からJR福知山線伊丹駅と大阪国際空港（伊丹空港）を結ぶ空港直行アクセスバスを運行。
- 2019年（令和元年）に愛称を募集し、2020年（令和2年）3月から専用のラッピングバス「伊丹エアポートライナー」の運行を開始。
- バス車両は、スーツケースやキャリーバッグ等の荷物を置くことができるラゲッジスペースを整備。
- 車外案内、車内案内は日本語、英語、中国語、韓国語の多言語に対応。車内アナウンスは日本語と英語で案内。



出典：伊丹市ホームページ

具体事例 神戸空港アクセスバス（神戸市）

- 三宮と神戸空港間を結ぶ主な交通機関である神戸新交通（ポートライナー）は、平日のラッシュ時の混雑により、大きな荷物を持って移動する空港利用者にとって乗降時の負担が課題となっていた。このため、2018年（平成30年）4月1日より新神戸駅・三宮駅と神戸空港をダイレクトに結ぶ神戸空港アクセスバスの運行を開始。平日のラッシュ時の混雑解消と空港利用者の利便性、快適性が向上。



2. 公共交通による観光客の周遊促進

施策⑱ 観光列車・観光周遊バスの運行、交通拠点からの二次交通の充実

- ◆ 観光地を結ぶ特急列車、レストラン列車等の観光列車、点在する観光地を周遊するバス等の運行を推進します。
- ◆ 主要駅・高速バス拠点と観光地を結ぶ二次交通（路線バス、コミュニティバス、タクシー、シェアサイクル等）の充実を図ります。

具体事例 観光列車「うみやまむすび」(JR 西日本)

- ・北近畿の主要観光地である「城崎温泉」(JR：城崎温泉駅)を拠点に、日本三景「天橋立」(京都丹後鉄道：天橋立駅)、「竹田城跡」(JR：竹田駅)等、北近畿エリアの魅力溢れる地域を結び2019年(令和元年)に誕生したJR西日本の観光列車。



出典：JR 西日本ホームページ

具体事例 都心ウォーターフロント地区連節バス(神戸市)

- ・神戸市では、都心とウォーターフロントを快適に楽しみながら移動できる環境の創出を目指し、新たな公共交通システムとして連節バスを用いた新たなバス路線「ポート・ループ」を2021年(令和3年)4月より運行を開始。

[運行車両とロゴマーク]



[運行ルート]



出典：神戸市ホームページ

具体事例 夢但馬周遊バス「たじまわる」(但馬地域)

- 観光施設が点在する但馬地域において、公共交通による観光周遊の利便性を向上させるため、県と市町、観光協会が連携し周遊バスを運行。
- コウノトリの郷公園、城下町出石、竹田城跡等但馬の主要観光施設を一度で回れるたじまわるプレミアム号をはじめ、但馬地域を満喫できる多数のコースを季節に合わせて運行。



出典：但馬観光協議会ホームページ

施策⑳ 企画乗車券等による利用促進

◆ フリー乗車券や観光施設とのセット乗車券等の企画乗車券の発行、公共交通を活用した観光キャンペーンの実施を推進します。

具体事例 バス旅ひょうご（兵庫県バス協会他）

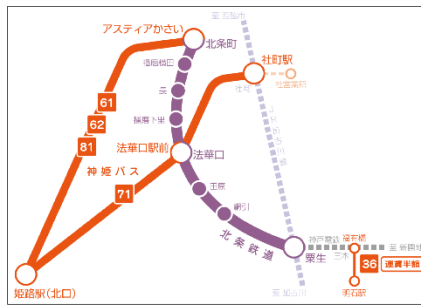
- 観光客への路線バスやコミュニティバス等の利用を促すため、兵庫県バス協会、バス事業者及び沿線市町と連携し、地域別のバスの乗り放題切符を販売。
- 城崎温泉・湯村温泉・但馬、西播磨、姫路加西、丹波篠山、北淡路、南淡路の兵庫県内6エリアで「バス乗り放題きっぷ」を設定。
- 地域と一体となった観光によるバス活性化を図るため、切符の提示でお得なサービスや割引を受けられる特典の付与等の取り組みを実施。

兵庫県内6つのエリアでバスをお得に

乗り放題!

バス乗り放題きっぷ

- ・城崎温泉・湯村温泉・但馬エリア
- ・西播磨エリア
- ・姫路加西エリア
- ・丹波篠山エリア
- ・北淡路エリア
- ・南淡路エリア



出典：バス旅ひょうご ホームページ

図 4-29 神姫バスと北条鉄道による「姫路加西バスプラス北条鉄道乗り放題切符」

出典：バス旅ひょうごホームページ

図 4-30 北淡路エリアパンフレット

施策⑳ 観光客への公共交通の情報提供

- ◆ 観光地への公共交通アクセスの情報の提供、駅やバス停における外国人を含む観光客にとってわかりやすい案内誘導・多言語表示の整備、観光地を PR するラッピング車両の運行等を推進します。

【 観光地への公共交通アクセスの情報の提供 】

【 具体事例 】 INFORMATION ひょうご・関西（大阪国際空港（伊丹空港））

- ・ 訪日外国人をはじめ、兵庫県を訪れる人が、安心・快適に滞在、交流・体験を楽しむための観光情報拠点として、大阪国際空港（伊丹空港）内に設置。
- ・ 観光案内や大型デジタルサイネージによる観光動画、VR 観光疑似体験の提供、多言語案内タブレット・多言語音声翻訳機を配置し、災害時には多言語で災害情報も発信。



出典：ひょうご観光本部 資料

【 ラッピング車両の運行 】

【 具体事例 】 明智光秀ゆかりの地を PR するラッピング列車の運行
竹田城跡と竹田城下町(JR 播但線 竹田駅)を周遊する路線バス



図 4-31 特急こうのとり ラッピング列車



出典：和田山町観光協会ホームページ

図 4-32 天空バス

目標3 誰もが利用しやすい公共交通

基本方針3：公共交通の利用環境改善

1. 交通結節点における快適性・利便性向上

施策⑳ 駅待合環境の改善、駅舎の整備・改築、バス待合環境の改善

- ◆ 駅における待合室やトイレ、観光案内所、物販・飲食店等の整備・改修を進めます。
- ◆ バス利用者が待ちやすく、安心して利用可能な上屋やトイレ、ベンチ等の整備、既存施設（道の駅、病院、商業施設等）の乗継拠点への活用を推進します。

【 駅舎の整備 】

具体事例 神戸電鉄 鈴蘭台駅（神戸市）・三木駅（三木市）

- ・鈴蘭台駅前では、公共交通中心のまちづくりが進められており、駅の橋上化、商業施設と区役所が入居する再開発ビル、駅前広場、周辺道路を一体的に整備。再開発ビルの3階は駅と直結、1階はバス・タクシー乗り場と接続し、公共交通の利便性が向上。
- ・三木駅は、2018年（平成30年）3月4日に焼失した駅舎の復旧に合わせて、地域のにぎわいづくりの拠点となるよう駅舎内の待合スペース、観光案内の充実を図るとともに、バス、タクシーの乗り場を備えた駅前広場を整備。



図 4-33 神戸電鉄 鈴蘭台駅



図 4-34 神戸電鉄 三木駅（完成イメージ）

【 バス待合環境の改善 】

具体事例 あいおい情報ラウンジ〔相生駅前総合情報発信施設〕（相生市）

- ・JR 相生駅南口前に整備された観光案内所。施設内に、電車やバスの乗り換え時の待ち時間を快適に過ごすことができるように休憩ラウンジやトイレ、無料 Wi-Fi スポットを整備。



あいおい情報ラウンジ 外観



観光案内所・交通事業者窓口



情報コーナー



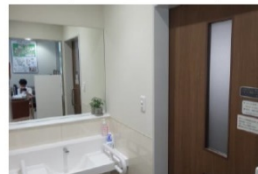
自由検索コーナー



待合ラウンジ



特産品販売



洗面室・トイレ

出典：「あいおい情報ラウンジパンフレット」相生市

具体事例 バス停上屋 宵田町バス停（豊岡市）

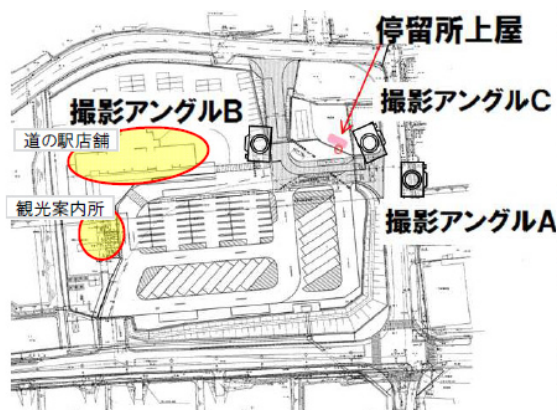
- 国道 312 号にあるバス停で、大きな上屋とベンチの整備によりバス待合環境を改善。
- 上屋デザインに「豊岡靴」を採用するとともに、「カバンストリート前」の表示を加え、豊岡市の地場産業であるカバン産業と多くのカバン店が軒を連ねるカバンストリートをPR。



【 既存施設（道の駅、病院、商業施設等）の乗継拠点への活用 】

具体事例 道の駅に設置されたバス停 [但馬農高バス停]（養父市）

- 道の駅「ようか但馬蔵」内にバス停を設置。
- 高速バス 2 路線、路線バス 6 路線が乗り入れる但馬地域のバス乗継拠点となっており、道の駅内の各施設（休憩施設、トイレ、レストラン等）を活用し、快適なバス待合環境を提供。



出典：「第2回モーダルコネクタ検討会」
国土交通省 資料

図 4-35 道の駅「ようか但馬蔵」内のバス乗継拠点設置状況